

天に響け！ 町づくりのバチさばき

山本郡八竜町

「久米岡＝追泊」とは何か？ 実は、久米岡と追泊の集落の63年3月末の人口だ。偶然同じ数字になっている。もう少し詳しく見ると次の表のようになる。

	40年	50年	55年	60年	63年
久米岡	333	271	255	249	232
追泊	264	236	233	227	232

地方の過疎化傾向は、わが八竜町もその例外ではなく、久米岡ではこの23年間で、実に101名もの落込みとなっている。

「村おこし」「地方の活性化運動」などが叫ばれてから久しいが、この数字を見ると、もう一度、真剣にこの運動に取り組まなければならないと思う。

もちろん、企業誘致なども大事だが、これは相手のあることで、一朝一夕にはいかない。それよりも、わが町独特のものをこそ、売り物にしなければならない。このため、町は若い人たちにもすんなり溶け込めるオリジナルな郷土芸能として、「八竜太鼓」を創作した。10月29日からの町民祭での初披露に向けて、目下猛練習が続けられている。八竜町では辰年にちなんで10月29日夕方、全国各地の“竜”の名前を持つ自治体の関係者が集まって「ドラゴンサミット」が開催される。「八竜太鼓」の初公演は、その歓迎レセプションに予定されている。

八竜町アライオンサミット

文化&産業祭で「もうかる農業」の成果を

山本郡峰浜村

峰浜では、村の文化振興、村民の生涯教育の推進などを狙いに、毎年村民文化祭を開催してきた。村おこしシンポジウムを盛り込むなど、既に村民の祭りとして定着している。しかし、基幹産業である農業など、産業物産の展示や催しが殆どなかったことの反省から今年には文化祭に産業祭をドッキングさせて、「'88 みねはま・ザ・むらまつり」を開催することになった。初開催の農業部門は11月1日から、石川の野菜集出荷施設で農産物品評会を開く。出品物は農林産品・民芸品などだが、一農家一品以上、千点を越す出品を目標に村民に協力を呼びかけている。そのほか、珍品農産物展も計画中。早くから、「もうかる農業」を旗印に農業立村を進めてきた、峰浜ならではの成果があるものと、期待が寄せられている。



'88 みねはま・ザ・むらまつり

秋田県立能代高校東京同窓会会則

- 第1条 本会は秋田県立能代高等学校東京同窓会と称する。
- 第2条 本会は能代高等学校を卒業、又は在籍し、東京及び東京近郊に居住する者は、総てその入会の資格を得るものとする。
- 第3条 本会は同窓生各位の親睦と相互の繁栄を図り、以て郷土の発展と母校の興隆に寄与するものとする。
- 第4条 本会は幹事を置く。但し、人数は制限しない。任期は定めない。
- 第5条 幹事の内より、会長1名・副会長2名以上・会計1名以上を置く。又、名誉会長及び顧問を置くことが出来る。但し、任期は2年とし、留任は妨げない。
- 第6条 本会の運営に当り事務局を設ける。
- 第7条 本会の運営一切の事項については、幹事に一任する。
- 第8条 本会は年1回総会を開催する。
- 第9条 本会運営費は、総会開催時に若干各位が納付するものとする。但し、金額に関しては総会開催時に幹事会がこれを定めるものとする。
- 第10条 納付された運営費は返還しない。
- 第11条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり、9月末日を以て終る。

市の発展に寄せる 市民の夢

能代市

能代市は、65年10月に市制施行50周年という節目を迎える。市はその記念行事を行う計画で、記念事業の内容について、市職員や市民から意見やアイデアを求めてきた。市民からの提言には、総合体育館の建設、動植物園の設置、ねぶながし館の設置、野外音楽堂の建設、能代ポートタワーの建設、桧山川運河の清流化、唐船御番所の再現などの大がかりな建設事業から、米代川水運フェスティバル（いかだ下り・帆掛船運行）、能代港祭り花火大会などのイベントを求める声が目立った。いずれも市の活性化を願い、夢にあふれるもので、50周年に寄せる市民の期待の大きさをうかがわせるものである。

市職員のアイデアはなお募集中だが、市民大運動会、市民オリンピック、花火大会の復活、ウッドミニ博物館、能代市出身のジャズ・ニューフォーク歌手によるコンサートなどのイベントのほか、阪急ブレーブス山田投手の勝ち星記念プレートや、「風の松原」植栽功労者の記念碑設置など、能代出身の有名人・先人に目を向ける企画も見られる。

市では、これらの提言を整理して、来年度には準備委員会を設けて、記念行事の具体化に向けて、検討を進める予定である。



市制50周年記念

現役最多勝利を誇り、球界を永年リードしてきた母校出身の



サヨナラ、背番号17
阪急ブレーブス
山田 久志投手

ひと

山田投手が、10月23日バ・リーグ最終戦にお別れ登板。9回をホームランによる1失点に抑える見事な完投勝利で締めくくり数々の栄光にふさわしい、有終の美を飾るとともに現役を退いた。山田投手は、能代市長崎出身。能代高校から、富士鉄釜石（現新日本製鉄釜石）を経て、昭和44年ドラフト一位で阪急ブレーブスに入団。独特のサブマリン投法で、流れるようなフォームからくり出す速球と、切れのいいシンカーを武器に勝ち星を重ねた。最多勝利投手3回、勝率一位4回、防御率一位2回、5年連続MVPなど多数のタイトルに輝き、ブレーブスを3年（51、53年）連続日本一にする立役者となった。

通算28勝（史上7位）の勲章をひっさげて、今後はNHK解説者として再出発する。20年間、本当にご苦労さまでした。